

# 石津川における環境改善活動

「石津川に鮎を」の活動を振り返って

H18年6月10日

黒河昌洋

## 1、はじめに

石津川は堺市の70%を流域とする2級河川である。その源流は河内長野市と接するあたりの里山にあり、堺市で始まり堺市で終わるといふ、まさに堺市民の川である。堺市で生まれ育った人たちはふるさとの川と思っではいるが、現在の石津川は2~3面張りであり、水質は汚染され、まさに排水路と化している。

堺市では古くから高い文化と産業に恵まれ、特に綿のさらし業、染色業などが盛んで、それらの排水は石津川に流されてきた。そのため都市河川である石津川は排水路と化し、市民もあきらめたのか、川との認識よりも排水路かどぶ川との考えが強い。近年、治水上の観点より2~3面張りの河川改修が行われ、この河川構造が市民が水辺に近づくのを妨げており、豊かな水環境を市民に提供することができず、危険な汚い、近づくこともはばかられる場所となっている。

この石津川に鮎が自然遡上するような清らかな水質と、石津川流域に豊かな多自然型の環境を取り戻すため石津川に鮎を、という旗印のもとにNPO活動を組織し活動を行ってきた。発足当時は石津川に鮎を、という言葉聞き冗談だろうと笑われたが、いまでは真剣な目線がかえってくるようになった。



石津川と百済川との合流点近くで（神石小学校のアプトリバー地点）

## 2、活動のはじまり

2003年に堺市の人より石津川の話聞き、NPO法人水環境フォーラムが中心となり、石津川の調査が始まった。その年の秋、石津川を歩くというイベントを企画し、地域住民の約30人とともに石津川を歩いた。皆さんの感想は川がこんなに汚いとは知らなかったというものであった。

2004年には春と秋の2回、石津川の水質調査を石津川全水系に対して行った。パックテストではあったが、石津川のすべての支川にもNPOの人たちが入り、同時刻に水質を分析した。結果は報告書で各方面に配布したが、石津川の支川ごとに水質汚濁の現状が明らかとなった。単純平均CODは15ppm程度であり、都市河川の汚濁の現状を身をもって知るきっかけとなった。

2005年6月には石津川の支川である百済川の水質調査を行い、あわせて付け替え前の昔の石津川を歩くというイベントを行った。水質は平均でCOD 17ppmであった。

これらのイベントには大阪産業大学の学生が数人程度いつも参加している。

### 3、堺地区での組織の立ち上げ、評議会の定時開催

これらの活動が徐々に堺市民のなかでみとめられ、2005年早春2月、堺市内に市民のボランティア組織である「石津川に鮎を」を結成した。現在評議会委員40名くらいであるが、堺市役所、大阪府土木事務所、小学校、研究所関係の方々は個人資格で「堺河川ボランティア」を組織し参画いただいているほか、その他多くのNPO団体なども賛同し参加していただいている。

#### 市民ボランティア「石津川に鮎を」

「テーマ」私たちは堺市の石津川流域を対象に、鮎が遡上し、トンボやホタルが見られる多自然型の豊かな環境を取り戻すため活動をしています。

#### 「参画団体」

堺河川ボランティア、堺泉北ロータリークラブ、  
NPO 法人水環境フォーラム、NPO 法人堺エコネットワーク協議会、  
NPO 法人日本下水文化研究会、大阪府河川ボランティア、  
大阪産業大学人間環境学部学生グループ、神石小学校、堺地区BBS、  
関西水環境ネット、堺泉北ライオンズクラブ、毛穴町自治会 ほか

### 4、現在の活動状況

この活動は鮎だけの活動ではなく、流域全体の環境改善の活動であるので、堰堤の緑化、清掃活動、各種イベントの開催、石津川フォーラムの開催など多くのことを計画し、一部実施している。これらの活動が堺市民の共感を呼び、石津川に目をむけて意見を発していただくことを願っている。

#### 1) 月1回の評議会の開催



環境調査報告などではプロジェクターが活躍

Core 建築工房の事務所をお借りして月1回の定例会を開催し、意見交換、活動の計画研修会などを行っている。

## 2) 各種イベントへの参画

大阪府いきいきネット主催の各フォーラム、シンポジウム、各地域の下水道フェア、各地域のイベントなどへポスター出展など行ってPRにつとめている。



フォーラム in 岸和田でのポスター掲示風景・・・がんばってるなあ～と好評

## 3) 地域のお祭り、イベントなどへの参画

内川・土居川まつり、泉北ふれあい祭りなどに参画、出展した。



内川・土居川まつりでは魚釣りゲームをしました。子供たちでいっぱい

## 4) 春、秋のイベント計画

年2回程度水質調査などのイベントを行っている。

H18年6月4日(日)には「和田川の水質調査と生物観察会」を計画しています。



百済川水質調査・・・学生たちも参加 まだまだ大丈夫と元気いっぱい

#### 5) アドプトリバーの推進と河川環境整備の推進

各自治会、小中学校、老人会、子ども会、各地域の環境ボランティアなどに働きかけて、石津川のアドプト（河川の管理の一部委託）を推進し、石津川の全水系が各団体のアドプトで埋め尽くされることを期待している。そのため、鳳土木事務所にはご協力をお願いしています。

これらの活動を通じて、石津川堰堤の緑化活動、清掃活動を行い、緑の回廊づくりや、水と親しむ環境整備、休憩場所、散歩道の整備、バードウォッチング設備、各種の自然観察設備などを整備するように活動していくつもりです。

#### 5、おわりに

私たちの活動は始まったばかりです。石津川に鮎が自然遡上するには、多くの関門があり、それを少しずつ解決していかなければならないでしょう。

となりの一級河川の大和川では実際に鮎が遡上し始める寸前までできています。大和川ではクリーンアップ作戦などのほか、河川浄化設備などのハード面の建設にも多くの努力が払われてきましたが、石津川でも多くのなすべきことがあるでしょう。

「石津川に鮎を」は夢やまぼろしではありません。私たちがそう望めば手に入れられる環境改善のひとつにすぎないのです。

以上